

教育長室からのお知らせ No. 91(令和 5 年 2 月)



教育長 田中 康寛

2020年2月、大型クルーズ船で新型コロナウイルス感染者が確認され、日本もコロナ禍へと突入していきました。未知のウイルスに対して、当時は「混乱」ともいえる状態でしたが、あれから3年が経ち、様々な対応策を講じて日常を取り戻してきました。とはいえ、未だ第8波の中にあり、感染者数は減少傾向にありますが、抜け出すにはもう少し時間がかかりそうです。今期はインフルエンザの流行も心配され、市内でもインフルエンザによる学級閉鎖が出ています。本格的な受験期に入り、受験を控える児童生徒は、健康管理についても気を揉んでいることと思います。受験生やその保護者が不要な心配を抱くことがないよう、各学校では、健康管理への配慮に努めるとともに、調査書の作成等にあたっては細心の注意を払い、複数の目で十分に確認するなど慎重に進めてまいります。

さて、今年度も残り2カ月となりました。各園・学校で、新年度に向けて教育の重点として何をどう準備していくのかを考えるにあたり、次の3点について力を注いでまいりたいと考えています。1点目は、体験活動です。自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験や地域社会での体験活動など、いわゆる「直接体験」は、「間接体験」や「疑似体験」が多くなっていることに加えて、コロナ禍で十分に行えずにいた状況から重要性が一層高まっています。自分の五感を使って感じる事、人との触れ合いやコミュニケーションから学ぶことは、何にも代え難い経験です。ある小学校では5年生の学習で地域の方の協力を得ながら「米作り」を行いました。担任の先生は、子どもたちの「米作りに挑戦したい」という強い気持ちから活動をスタートさせ、常に子どもたちが自ら課題を見つけ、考え行動することを大切に、地域の支援者の方にも、子どもが自発的に動くまで待ってもらえるようお願いしたそうです。田植えの時の泥の感触、失敗をしながら長期間苦労して育てたからこそ感じる思いなど、体験しなければ得ることはできません。大人がお膳立てをして、ただ単に経験するだけの体験活動ではなく、子ども自身が感じ、考える体験活動を、教科学習、学校行事などあらゆる場面で取り入れてまいります。2点目は、幼稚園(保育園)、小学校、中学校との交流活動の推進です。これから新年度に向けて、それぞれ引継ぎが行われますが、この時期だけでなく、年間を通して交流活動を行うことでお互いを知り理解を深め、各園・学校の教育活動の充実につなげたいと考えています。3点目は、研修会の充実です。子どもや学校が抱える課題が複雑化・多様化しており、それに対応していくためには、教職員の専門性を高めることや、子ども理解を深めることが必要です。ある中学校では、不登校生徒が多い現状を踏まえ、専門家を講師として招き、不登校についての研修会を予定しています。研修会には保護者の参加も呼びかけ、教職員と共に不登校への理解を深め、不登校生徒へのアプローチの方法を学ぶ機会とします。各園・学校では、自園・自校の課題から校内研修を設定するなどし、子どもに寄り添いニーズに応えられるよう教職員一人ひとりの力を高めてまいります。

2月は「如月」とも言いますが、他にも「令月」という呼び方があります。何をするにも良い月、素晴らしい月という意味があるそうです。今年度のまとめ、新年度に向けての充実した1ヵ月になることを期待しています。